□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　グループホーム　ひなぎく　※

日付　平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名　ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験9年
評価調査員　在宅介護経験12年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

２ユニットのグループホームでは、利用者の性格や精神状態、又職員によってユニットの雰囲気が変わっているところも多い。このホームでも利用者の生活パターンも違っていた。それぞれのユニットが「静」と「動」の感じを受けた。２階の利用者２人が１階のユニット（静）を訪ねてくるだけで、その雰囲気が明るくなる。これは一人の人間として成せる技であり、人間同士の輪づくり、環境づくりが導き出す力ではないかと考える。

法人の運営方針に「人と人との出会いを尊いものと考え、人の抱える問題を人の感覚で受け止め、人として考え、人として対応する考えに立って・・・」とある。このホームで生活する人は、残念ながら認知症になる原因の病気に罹り、人間の持っている機能の一部に欠落が生じ、不自由な生活が余儀なくなってしまった人達である。しかし、利用者はそれぞれ立派な人間としての人格を持ち、それぞれ人として持っている意志と能力を発揮して、自分の人生を歩んでいける人達であり、人として十分にお付き合い出来る利用者である。私は、認知症になった方々は普通の人として常にコミュニケーションをし、その人の目線に立ってお付き合いをしていける者として、この法人の運営方針の言葉に喜びと幸せの思いで共鳴した。特に『人の抱える問題を人の感覚で受け止め』という言葉の深さと広がりに対し、この法人に関係した人々がどのように受け止め、この言葉を実際の仕事の中に活かしていっているのだろうかと興味深く見せてもらいたいと考えた。

このホームで生活している１８人の利用者の病気も全部違い、それぞれの人間の本質も異なっているので、これから１年先、２年先にこの人達の状態はどうのよういう変化していくのだろうかと、医学的にあるいは心理的や社会的に考えてあげ、その仮定の原点に立ったケアやサービスを考えていくということが考えられないだろうかと、このホームを見せてもらって改めて人間というものを考え直すきっかけを与えてくれた。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

人それぞれに不自由さを持ち、不能な部分もあるが、それぞれに可能な話しや意思表出の「きっかけ」を投げかけて、出来るだけ多くのコミュニケーションが出来るような機会をつくって、利用者に自分の心の内を表出できた満足感を与えてあげて欲しい。例え一日に１０～１５分でも、利用者と職員が向き合ってコミュニケーションできることを期待する。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

法人の運営方針と重点目標が掲げられており、１８年度の年間計画も決めて、それらが一体化して表示されているプロセスは立派なものとして受け止めた。しかし、残念なことに、この一連の方針・目標・計画の文章と言葉を見ると、同じレベルの言葉が抽象的な範囲を脱しない表現になっていて、具体的且つ客観的な言葉や目標にブレークスルー又はブレークダウンしていない事が気になり、実際職員が日常の業務（仕事）にどのように反映していくのだろうかと思わざるを得ない不安も感じた。

実際に、ケアプランや生活記録等を見ても、「声かけ」とか「寄り添い」「ゆったり」「穏やか」等の抽象的、情景的言葉が使われ、具体的な行動や言動の言葉や行為が目につかないのも、一つの表れかとも思った。現場で使うプランや記録には、是非実際の行動を具体的に表わす表現で日常の業務をこなす習慣をつけて欲しいと希望する。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

広いスペースのリビングルーム、そこに食卓とソファのスペースがある。２ブロックに別れた各個室前の廊下とリビングルームが凡そ直線的な長い距離と空間を作り、そこで歩行訓練等のリハビリにも使われている。キッチンとスタッフスペースは開放的で、リビングルームの空間につながっていて、この空間が一体化して、ゆったりとした気分を利用者に与えており、利用者はこの空間を自分の生活の場や自分達の仕事場として活用している。利用者は将棋をしたり、塗り絵をしたり、利用者同士の話しや団欒に使って、それぞれが自分の生活をして、楽しんでいる。

Ⅲ ケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者･家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り･情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見･対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

モップで掃除をする、食後の後片付け、食器拭き、塗り絵、計算練習、新聞を読む、将棋を楽しむなど、利用者は自分で出来ることをしている。これからも利用者の色々な情報を家族に協力してもらいながらもっと詳しく聞いて、毎日の職員の気付きも加えて、その人をよく把握し、一人ひとりの能力を引き出そうとしている。また心理的な安心感にも寄与することになる。

味噌作りや、ラッキョウ漬け、梅干、梅ジュースなどを職員が本を片手に、利用者にも教えてもらいながら、作っているそうだ。秋には秋刀魚パーティーを開いて、「美味しかったよ」と利用者は喜んでいた。職員も、次回もと張り切っているようだ。いろんな事に挑戦して、生活に変化をもたせている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

運営推進会議を平成１８年６月より２ヶ月毎に開催し、日々重ねる毎に家族や地域との関わり方に広がりを得て、町内会に“たより”の配布を申し出てくれたり、地域の人々のホームに対する関心が持ってもらえるようになった。大学の実習生や中学生の体験学習も受け入れており、交流や認知症理解の啓発にも役立っている。

地域のボランティアの慰問演芸等には法人の特養ホームと一緒に観て楽しんでいる。ホームでは、年間の行事を計画し、毎月外出しており、ホーム前の空地で行事をして、家族や近所の人も参加して楽しんでいる。家族がホームの生活に協力したり、地域の人々との交流も深まって、地域密着型サービス提供事業者としての存在価値を高めていくことを期待している。

ホームの玄関には、ホーム運営に関する諸事項や活動状況を開示して、誰でも来訪者に見てもらえるようにしている。